

# 日々の想



ずいそう

し信頼し合って行けたらと思う。  
(いわき市立川部中学校教頭)

## 感動を共有する喜び

山本 由美子

## ある山あいの学校

山田 昭栄



御斉所峠を越えて下ると雨が雪になる。気温の差が激しい。下りきると才鉢で左の橋を渡ると貝泊、石住中学校はそれから四キロ先にあった。二十数年前この地に赴任した。軽トラックに荷物を積み砂利道をコトコト進んだ。道は大きな枝に覆われ昼なお暗い。助手席の家の前には二才と四才の子供が心配そうに背を

のばし外を眺めていた。一時間して教員住宅についた。ほっとした。

入学式も無事終わり、一年担任十八名で新たに出発、生徒達の眼は澄んで輝いていた。心配していた近所の方々もよく、家内や子供達のお陰ですぐ親しくなった。小学生やクラスの生徒達が暇があると遊びにきた。庭の横に薬師堂がある。年に一度酒をくみかわし笛や太鼓に合わせて皆んなで踊る。としをとった方々踊りがうまい。私も生徒も加わった。

その時以来おとしより達が我が家のベランダに来ては、集まる子供達に色々なことを話してくれた。授業参観の道徳の時間では意見や感想をいうおばあさんもいた。また春がやってきた。全校生は自分で作った菓箱かけやフキとり忙しい。一段落つくと私は生徒達に連れられて山菜とり、生徒の中には名人がいて案内してくれる。鹿のようだ。「先生早く」とも追いつけない。しかし欲は疲

れを忘れさず。収穫は多いがもらったものの半分。住宅の裏に畑を借りて野菜を作った。春菊などすぐ食べられる。川では石の間の魚を手でつかまえた。石をハンマーでたたいて魚をとるのもこの時知った。初夏になると部活一色、これも例外ではない。女子はバレー、男子はハンドボール、男子のそれをやることになったが私も生徒も知らない。初めての部活だ。そこで生徒と共に高校の試合を見学したり、好間中や小川中に行つて教えを乞うた。ルールブックと首つびき、そして猛練習、市大会を経て念願の県大会、優勝候補と互角の戦い。

地域の人達の応援も力が入った。「先生、おいら頑張つたね」「成せば成るさ」選手達、力を出しきった。夏が終わり秋がやってきた。学習発表会、小・中とも準備に忙しい。地域の人達こそつて見にくる。個々の能力が引き出されて楽しい。秋が深まると勉強に力が入る。宿直室や住宅にもやってくる。真剣だ。成績もあがる。美しい紅葉の葉も落ちると荒涼とした山々になる。冬日の陰りも早く空はいつそう狭くなった。家族と共にこの地にとけこみ自然の美しさ、人情の豊かさに触れた日が懐かしい。

今後も出会いを大切にお互い理解



教師になって三年目を迎えた。「先生」という響きにもようやく違和感を感じないようになり、とにかく無我夢中で走ってきたような気がする。二年間担任した子供達と離れ、新しい子供達との出会い。今年はどうな感動をどれだけ共有できるのだろうか、胸躍る気持ちで新学期を迎えた。本校は、養護・訓練という時間が週四時間設定されており、この時間の中で私は、W君とマンツーマンで取り組むことになった。W君は小学部一年生。両上下肢にまひがあり、移動手段は車いす。本校に隣接している県総合療育センターに入所しており、そこから毎日通